

# 九州高校総体派遣報告書

山中萌衣

- 1、日時：令和元年6月22日(土)、23日(日)
- 2、場所：沖縄県立武道館アリーナ、那覇市民体育館

### 3、《PGCについて》

- ・ 3PO メカのベーシックの確認。
- ・ ガイドラインの確認。
- ・ 処置ミスをなくすためのコミュニケーションを取り合うこと。
- ・ インテグリティについて。
- ・ TO、ベンチの管理。

### 4、担当ゲームについて

○女子1回戦 熊本商業（熊本県）対小林（宮崎県）

CC：金岩（佐賀県、A級）、U1：山中、U2：渡慶次（沖縄県、B級）

#### 《ゲームの実際》

序盤から小林がリズムを作り、点差を話していくゲームだった。しかし、お互いに攻防が激しく、特にスクリーンプレイに対しての決断が必要だった場面がポイントであった。

1Qで私が3Pシュートへのファールを吹きFTを与える際、3本のはずが2本しか与えていなかったというミスが起こった。レポートをした後に、他のレフリーに大きく3本だということを示していなかったのが一番のミスである。また、違和感を覚えた時にすぐに止めることができなかったこともこのような大きなミスにつながった。ベンチから確認があった時には、もう訂正できる処置ではなかったため、そのままゲーム続行となった。これが1点差の試合だったらと考えると、とても大きなミスを犯しており、この試合で最大の反省点であった。

3Qでは、私のプライマリの判定をこぼす場面や判定できなかったプレーもあり、1試合通してCCメンタリティが欠けた試合となってしまった。

試合を通しては大きなこともなかったが、私自身、処置ミスや判定など、多くの課題が残る試合であった。

#### 《ゲーム後の反省》主任：千原氏（大分県、B級）

処置ミスについて話題になった。ここでは、起きたことへの対処の仕方をどうすればよかったのかということを確認した。一番は、レポートレフリー（私）が3本だと

いうことを大きく示す必要があったこと、気付いた時にすぐに止めなければいけなかったことが挙げられた。プレーに関しては、スクリーンがイリーガルなものもあったのではないかと指摘をいただいた。1試合通してスクリーンプレイが多くあり、一度も笛は鳴らなかったが、鳴らすべきものもあったとビデオを見ながら振り返ることができた。

○女子2回戦 佐賀北（佐賀県）対小林（宮崎県）

CC：石嶺良（沖縄県、A級）、U1：山中、U2：石嶺荘（沖縄県、B級）

《ゲームの実際》

小林がDefからリズムを作り、優位にゲームを進めていった。私自身、1試合目の反省をまたしないように、確認や決断ということ意識して臨んだ。

エリア内で起きたことに対してそれぞれのレフリーが判定をしたことで、大きなこともなくスムーズに進行することができたと思う。

○女子シード決定戦 延岡学園（宮崎県）対中津北（大分県）

CC：寺田（長崎県、A級）、U1：金岩（佐賀県、A級）、U2：山中

《ゲームの実際》

シュートがよく決まり競る展開であったが、最後は延岡学園が高さを生かして引き離した展開になった。1試合を通して、延岡学園の留学生のところポイントであった。

延岡学園の攻撃が最終的にはリードから見て左側で終わることが多かったため、リードは早めにローテーションをおこすということクルーで共通理解できた。留学生に対して、中津北は高さがない分、フルフロントで守ったり、カバーを早くしたりとしていたので、裏にパスが入ることにはセンターが対応するという共通も共有した。足元に入ってくるDefを嫌がって手が出てきたときに、エリアはリードの私であったが、センターからこぼさずに吹いていただいた。そのとき、リード（左側）の反対にプレイヤーがいてローテーションするかどうか迷っていたときだったので、ボールサイド2を形成できていればよかったと感じた。

マージナルな判定をしてしまったとき、ショットクロックは16秒を示していた。8秒バイオレーションも成立するので、マージナルかどうかの判断と時計の管理が必要であった。

1試合を通して、大きなこともなく、クルーともコミュニケーションをとりながら進めることができたと思う。

《ゲーム後の反省》主任：紀伊氏（佐賀県、A級）

マージナルな判定が何本かあったので、プレーの状態をみてから笛を鳴らすぐらいの余裕があってもいいのではないかという指摘をいただいた。リバウンド後に吹いたものに関して、ボールの保持ができていたので、ボールを失ってから判定でもよかったのではないかということだった。プレーの状態までしっかり把握して判定をするようにしていった。

## 5、まとめ

今大会では、処置ミスにつながる確認不足があったり判断ができない時間帯があったりと、私の足りない部分が出てしまった大会だったと感じます。処置ミスに関しては、1試合目だったので、以降の2試合は起こさないように確認を意識しながら修正して臨むことができました。しかし、まだ細かい時間管理ができていないこともあり、今まで意識していないわけではなかったが、まだまだ甘かったと痛感し、多くのことを頭に入れてレフェリングをする訓練が必要だと感じました。

今回の反省をここで終わらせず、今後もとりくんでいかなければいけないと思います。インターハイ前にこのような場で強化することができ、また処置ミスに対しての対応など学んだことや反省すべきことも多くできたことがよかったと感じています。この経験が無駄にせず、インターハイ・国体に向けてまたレベルアップできるように取り組んでいきたいと思います。

最後になりましたが、大変お世話になりました沖縄県バスケットボール協会の皆様、そして今回の派遣にご配慮いただきました原田審判長をはじめ鹿児島県審判委員会の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。